

県・中運局「議論不十分では」

タクシー事業者代表として出席した大西史人三重県タクシー協会北勢支部長は、「実際に町内に事業者がある。当該事業者は乗合タクシーなどの対応もできると言っている。茨城県稲敷市のように利用補助を実施している例もある」と既存のタクシー活用を訴えた。

タクシー事業者代表として出席した大西史人三重県タクシー協会北勢支部長は、「実際に町内に事業者がある。当該事業者は乗合タクシーなどの対応もできると言っている。茨城県稲敷市のように利用補助を実施している例もある」と既存のタクシー活用を訴えた。

県の交通政策課の福田田佳課長も「既存のバス、タクシーの見直しの議論がされていらない。一部の声だけでなく、データの裏付けなく、データの見直しに基いて議論するのが公共交通会議ではないか」と疑問を投げかけた。決

める内容なのか」と全会一致の原則を尊重するよう求めた。

中部運輸局では菟野町の公共交通会議について、「要綱上、全会一致が原則で、やむを得ない場合に多数決となっているが、今回、空白地について十分に議論がされたかどうか」と指摘

タクシー事業者代表として出席した大西史人三重県タクシー協会北勢支部長は、「実際に町内に事業者がある。当該事業者は乗合タクシーなどの対応もできると言っている。茨城県稲敷市のように利用補助を実施している例もある」と既存のタクシー活用を訴えた。

県の交通政策課の福田田佳課長も「既存のバス、タクシーの見直しの議論がされていらない。一部の声だけでなく、データの裏付けなく、データの見直しに基いて議論するのが公共交通会議ではないか」と疑問を投げかけた。決

める内容なのか」と全会一致の原則を尊重するよう求めた。

中部運輸局では菟野町の公共交通会議について、「要綱上、全会一致が原則で、やむを得ない場合に多数決となっているが、今回、空白地について十分に議論がされたかどうか」と指摘

「対価など運行の仕組みについても十分に説明されていないのではないか」としているほか、「構成員に住民が多く、学識経験者が入っていない。鉄道、バス、タクシーの資源をどう活用するかといった町全体の公共交通に関する計画が策定されていない点も問題」

(自動車交通部)としている。

タクシー事業者委員の大西支部長は会議を振り返って、「タクシーからの出席者は一人。発言すればするほど、住民や利用者側の委員からは業界のエンジニアのように見られてしまったのではないかと話す。同支部長は9月中旬、町からの事前説明の内容に危機感を持ち、全国ハイヤー・タクシ

ー連合会(全タク連)事務局にも相談している。「他の委員にも業界としての考え方を前もって説明に行くべきだった」としている。

同支部長は、町の主張する十分な輸送サービスの確保についても、「15台なら十分足りていると説明したが理解してもらえなかった。足りているのか、いなかの判断は難しい。住民は、町から案が示されれば、選択肢が増えれば良い」と、もどかしさを見せる。

同支部長は、町の主張する十分な輸送サービスの確保についても、「15台なら十分足りていると説明したが理解してもらえなかった。足りているのか、いなかの判断は難しい。住民は、町から案が示されれば、選択肢が増えれば良い」と、もどかしさを見せる。

同支部長は、町の主張する十分な輸送サービスの確保についても、「15台なら十分足りていると説明したが理解してもらえなかった。足りているのか、いなかの判断は難しい。住民は、町から案が示されれば、選択肢が増えれば良い」と、もどかしさを見せる。

同支部長は、町の主張する十分な輸送サービスの確保についても、「15台なら十分足りていると説明したが理解してもらえなかった。足りているのか、いなかの判断は難しい。住民は、町から案が示されれば、選択肢が増えれば良い」と、もどかしさを見せる。

同支部長は、町の主張する十分な輸送サービスの確保についても、「15台なら十分足りていると説明したが理解してもらえなかった。足りているのか、いなかの判断は難しい。住民は、町から案が示されれば、選択肢が増えれば良い」と、もどかしさを見せる。